

ARC アジアリソースセンター アジア知的障害連盟

Star Raft Award

星槎賞

受賞者

済州島における障害がある人たち最初の社会福祉法人
社会福祉法人“Choonkang” (韓国)

若竹ミュージカル・映画：そのサクセスストーリー
若竹会 (日本)

CAMP PAG-IBIG:障害がある子どもたちのデイキャンプ
フィリピン遅滞協会 (PAR)

22nd, Aug, 2011



星槎とは

中国の故事で、ある若者が鎖国という状況の中、知識と見聞を得るために非常な苦勞して諸国をまわり、結果として自国の窮を救うという話があります。

これは、古来よりの「海の中から現れた『いかだ』が天空を旅した」という伝説に結びつき、「星槎」という言葉となりました。「槎」は「いかだ＝(舟)」のことで、長さの違いこそ当然あるでしょうが、一本一本をあわせれば大きな舟となり、悠々と目的に向かって進んでいくことができます。全国から集う生徒たちの一人ひとりの小さな力が強く結びつき大きな一つの船ができあがります。その船に乗って、みんながそれぞれの持てる力を発揮し、「星(希望)」を目指して進んでいこうという意味が「星槎」には込められています。

First social-welfare Corporation for the disabled in Jeju

Social-welfare Corporation "Choonkang", Korea

濟州島における障害がある人たち最初の社会福祉法人

社会福祉法人 "Choonkang" (韓国)

社会福祉法人"Choonkang"の歴史

1987年の11月27日、社会福祉法人"Choonkang"は、濟州島で最初の社会福祉法人として設立された。それから、"Choonkang"は、濟州島の障害がある人達に対して、最高のリハビリテーションサービスを提供するためにベストを尽くしてきた。"Choonkang"は、濟州島地域リハビリテーションセンター、Seogwipo地域リハビリテーションセンター、Choonkang 障害者労働センター、濟州島 Choonkang リハビリ病院、そして、"Eoulimteo" 職業リハビリテーションを運営している。

社会福祉法人"Choonkang"の設立の理念は、まず、人生に困難をもっている人たちに明るい人生の希望を与えること。二番目に、リハビリテーションのプロセスを通して、障害を機能的に改善することと精神的健康をもたらすこと。三番目に、社会から阻害されている人々が、未来に向けて発展し、社会に参加していくことを助けるステップになることである。

Choonkang のビジネス

Choonkang は、障害がある人達のニーズに合わせたさまざまなセンターを運営している地域リハビリテーションでは、カウンセリングや特殊教育、リハビリテーション心理学、職業リハビリテーションサービスなどの活気のあるリハビリテーションプログラムを提供している。職業リハビリテーションセンターでは、多くのビジネスの領域で、障害がある人達に、仕事を作ったり、職業の機会を提供している。例えば、洗濯業、コピーの仕事、金属工芸、織物、タンジェリンろうそく作り、カリグラフィ彫刻、Doenjang と呼ばれる韓国伝統の味噌づくりなどである。そして、リハビリテーション病院では、内科、リハビリテーション科、認知症科、小児・成人を対象とした作業療法、成人を対象とした理学療法、ペインクリニック、水中療法、言語療法の専門家がいる。

支所施設の主な特徴

Choonkang の全支所は、濟州島の人々から認識されている。それらの主な特徴は以下である。まず、濟州地域リハビリテーションセンターは、保健福祉省が監督している障害がある人たちのための福祉センターの評価で、最も素晴らしい地域リハビリテーションセンターとして選ばれている。そして、Seogwipo地域リハビリテーションセンターは、障害がある女性のビジネスエンパワーメントを行う最も素晴らしい機関に選ばれている。二番目に、Choonkang 労働センターは、雇用されているすべての障害がある人達に対して保険をかけている最も素晴らしい企業である。このセンターは、旅行おみやげコンテストで何回も表彰されている。三番目には、濟州 Choonkang リハビリテーション病院は、親の人生の独立性を改善するためにさまざまな医療やリハビリテーションサービスを提供している。

成功する要因

社会福祉法人"Choonkang"によるリハビリテーションプログラムの成功の理由は、以下のようにである。まずはじめに、"Choonkang"の社長やCEOは、彼の基盤となる哲学を実現させるための強い意志と情熱を持っている。彼は身体的な障害があるにもかかわらず、本当に一生懸命働いて、濟州で初めての社会福祉法人"Choonkang"を設立した。二番目に、Choonkang は、一生運にわたって包括的なリハビリテーションサービスを支部施設を通して提供している。三番目に、私たちはさまざまな仕事を創設し、様々な仕事の機会を提供してきた。それ故、われわれの会社の障害がある人たちの雇用率は81%になった。4番目には、われわれのスタッフは、特別なニーズのある人々に対して的確なサービスを提供することを目指しているからである。

Wakatake Musical and Film Production: It's Success Story.

Wakatakekai, Japan

若竹ミュージカル・映画：そのサクセスストーリー

若竹会（日本）

若竹は、若い竹のことを意味する。竹はとても早く成長し空まで伸びる。それらは成長していく子どもたちを象徴している。若竹は、東京学芸大学附属特別支援学校の象徴でもある。

若竹会は1993年にミュージカルの活動を始めた。それは、特別支援学校の卒業した知的障害がある人々のための余暇活動や芸術活動を豊かにすることを目標としていた。その活動が生まれて今年で18年である。1993年には、たった20人の障害がある生徒と様々な先生とボランティアがこの会に参加していた。1996年にオーケストラが結成された。ミュージカルは、知的障害がある40人の人たちによって公演されている。オーケストラには40人のメンバーがいる。また、60人の支援者たちがいる。若竹会みんなで140人の人たちによって構成されている。

若竹会の活動は毎週のレッスンから公演までである。毎週のレッスンには、ボイストレーニングや、即興、アクション、ステージによる準備書などがある。若竹ミュージカルのレパートリは、「屋根の上のバイオリン弾き」、「サウンドオブミュージック」、「ウエストサイドストーリー」などである。若竹会は、地域の学校や劇場、その他の場所で、設立以来40回以上公演を行ってきた。

ミュージカルは、音楽と歌と、セリフとダンスによって構成されている。情緒的な部分として、ユーモア、情念、愛、怒りなど、物語そのものと同じぐらいある。ミュージカルは、言語的、非言語的言葉、音楽、運動、エンターテインメントの技術的な側面を通して、知的障害がある人々にとって、とても素晴らしいコミュニケーションの手段である。

若竹ミュージカルでとてもドラマティックな瞬間は、セリフや歌の場面でよく演じられている時である。よく知られているように、「話すには思いが強すぎるときは歌を歌い、歌に強すぎると踊りを踊る」、「ミュージカルでは、知的障害がある人が演じるキャラクターに合うように歌が作られている」。

多くの役者は、障害に関わらず、ミュージカルにとっても熱心に取り組んでいる。彼らは決められた規則の中で、厳しく激しい練習を通して、彼らの障害を乗り越える自尊心と自信を育てている。毎週の練習や公演は、彼らのエネルギーの素である。若竹会は、今日本のオペラに挑戦している。

若竹会は新しいプロジェクトを開始した。彼らは過去のミュージカルの活動を反映した新しい本を出版した。その本は、彼らの未来の活動のために新しい方向を見据えている。この本によれば、韓国人で有名な映画監督、金聖雄監督が、2011年1月に「空想劇場～若竹ミュージカル物語～」という名のドキュメンタリー映画を作成した。金監督は、この映画のなかで、「このミュージカルのすべての役者は、空想の世界と現実の世界に橋をかけるとても創造的な芸術家である」と強調している。

この映画は、役者たちの毎週の練習や衣装のデザイン、ステージの小道具、照明、音声などをえがいている。ミュージカルの活動から離れる、役者たちの日々の仕事の生活や、彼らの家族、友達などにも焦点が当てられている。

みなさんがこの映画を通して、若竹ミュージカルのサクセスストーリーを受け入れてくれることが私達の願いと祈りである。

付け加えとして、このドキュメンタリー映画「空想劇場～若竹ミュージカル物語～」は、8月25日の午後1時に上映される。この役者の何人かがこの会議の参加者に対して挨拶を行う予定である。

CAMP PAG-IBIG: Annual Day Camp for Children with Disabilities

Philippine Association for the Retarded, (PAR) Inc.

CAMP PAG-IBIG:障害がある子どもたちのためのデイキャンプ フィリピン遅滞協会 (PAR)

CAMP PAG-IBIG (LOVE)は、障害がある子どもたちのための年に1度のデイキャンプである。フィリピン遅滞協会によって1976年に始められ、このプロジェクトは、大統領令1285として、2月14日から20日に“遅滞のある子どもたちの1週間”の行事として注目される。このデイキャンプは、もともと知的障害のある子どもたちと青年たちに向けて企画されていたのであるが、親からの切迫した要求のおかげで、特殊教育を受けている他の生徒達も含まれるようになった。今回は35年目になり、CAMP PAG-IBIGは、障害がある子どもたちへのサービスと責務の象徴となっている。身体障害や、視覚障害、聴覚障害、その他の発達障害などの障害がある参加者が少なくとも年に2000人受け入れられている。特殊教育センターがある地域の学校の通常の子どもたちも、地域インクルージョンの模範になるように、ジュニアキャンプカウンセラーとしてこのキャンプに参加している。

CAMP PAG-IBIGは、発達障害がある子どもたちに、彼らの社会性スキルをアウトドアの活動を通して高めていく機会を提供するために計画されている。また、CAMP PAG-IBIGは、社会全部からの支援を役立てることによって、アドボカシーのための素晴らしい場所として概念化されている。このプロジェクトは、政府と、NGOの両方の参加を通して、究極的には、障害がある人々の質の高い生活を提供することによって、チームワークと協力を際立たせている。

このプロジェクトの目的は、a)障害のある子どもたちや青年たちが健全で実りのある地域のプロジェクトに参加することを可能にさせること、b)意味のある社会プロセスの中で、それらの子どもたちのインテグレーションやインクルージョンをすすめていくため、c)障害がある子どもや青年達のための教育、社会的活動に家族を積極的に巻き込んでいくため、d)障害がある人たちのアドボカシーの形のために地域参加をまとめていくため、e)障害がある人々の機会均等や完全参加とインクルージョンなどの権利を進行していくためである。

CAMP PAG-IBIGは、ケソンシティの教育部門や、the Capitol Jaycees、マニラ水道公社、その他のNGOなどによって支えられている。市長の事務所は、その他の機関と一緒にキャンプの実行のための後方支援を行ってくれている。今年は、デイキャンプが、2月の13日から14日に行われ、特殊学校や通常学校から発達障害がある子どもたち約2000人が泊まった。特殊教育教師は、様々な活動において、キャンプカウンセラーや、ユニットリーダー、活動の専門家として活躍した。約450人のボランティアは、キャンプの運営の手伝いを行う親や大学院生などによって構成された。このプログラムは、学校教育のカリキュラムを補う、水泳や絵画、自然学習、調理、アウトドアゲーム、スポーツ、音楽、ダンス、芸術・工作、サバイバルスキルなどの活動に焦点を当てていた。

プレキャンプ・前夜活動では、257人の知的障害がある青年が参加し、調理やダンス、リーダーシップトレーニング等移行期の活動が提供された。このキャンプの他の重要なことは、キャンプの活動と同時に親のシンポジウムが行われており、知的障害がある子ども親100人が参加し、移行期の問題や親の関心について議論された。

この活動の評価は、質問紙によって行われた。その結果から、CAMP PAG-IBIGは、質の高い地域のプロジェクトであり、発達遅滞がある子どもたちの地域におけるインクルージョンの機会を高めるものであることが示された。